

第74回全国人権・同和教育研究大会 分科会・分散会報告一覧

学校教育部会

第1分科会 人権確立をめざす教育の創造

分散会番号	会場施設名	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
第1分散会	大阪市立淡路中学校 (体育館)	鹿児島県	「先生はどうせ、ぼくのこと怒ってるんでしょ！」 ～こうたさんが安心して自分らしくいられるために～	南さつま市立加世田小学校	「支援学級の子どもは自分とは違う」と言った子どものことばから、なかまづくりを始めた報告者。子どものことばに、自分が子どもをどう見てきたのかを見つめ、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりにとりくんだ報告。
		徳島県	命をつなぐために ～地域の体験を通して～	阿南市宝田こどもセンター	地域の実態(防災)や先人の思いを知るなかで子どもたちの大切な命を守るために何が必要なのか、また地域とのつながりや絆を大切にすることを育みたいと願い、実践に取り組んできた。
		大阪市	何度も、何度も。あきらめずに。 ～おとな子どもも「我武者羅」に駆け抜けた3年間～	大阪市立淡路中学校	「互いにちがいを認め合い・尊重し高め合う生徒集団」の育成をめざし、一人ひとりの立場や背景を生徒どうしが互いに尊重してきた。「居場所づくり」を合言葉に生徒の小集団を重視してきた実践を報告する。
		滋賀県	「ちょっと描いてみる」 ～Aさんから学んだこと～	草津市立老上西小学校	小学校1年生Aさんの思いや悩みに寄り添いながら、Aさんを中心に据えた学級経営を行うことで、知らず知らずにもっていた自身の固定観念や価値観の押しつけに気がつき、学級児童と共に変容してきた姿を報告します。
第2分散会	大阪市立西淡路小学校 (体育館)	熊本県	「変わることを楽しみながら」	南小国町立市原小学校	まわりの子とよくトラブルになっていたりゅうくんを、授業を通して子どもたちとつなげていった報告。命の大切さや性自認についてなどの子どものつぶやきをきっかけにして子どもたちと向き合っていく報告。
		香川県	「あたりまえ」からの始まり ～私が出会った人たちから～	土庄町立北浦こども園	園での出会いのなかで、私が思っていた「あたりまえ」は人によってちがうことに気づいた。子どもたち一人ひとりの背景を知り、子どもたちが元気に登園し、遊び、成長していくことができるように保護者とともに考えていきたい。
		大阪府	みんなの話 きけてよかったわ	東大阪市立意岐部東小学校	仲間に厳しい言葉で思いを伝えるA。まちたんけんをきっかけに地域の方の思いを知り、自分たちとつなげて考えた。その後、さまざまなくみを通して自分をふりかえり、くらしを語り合う子どもたちの姿を報告する。
		大阪市	陽介との出会いを通して ～あきらめずかかわり続ける～	大阪市立西淡路小学校	支援学級に在籍する陽介は、自尊感情が低く、学校生活の中で意欲的に活動することが難しかった。そんな陽介や家庭を、うまくいかないことが多かったが支え続けた担任の実践を報告する。
		奈良県	「わたしは、人にきつくゆったりする、からちよつとづつなをしたいと思った。」 ～Aさんとともに変われることを信じ続けて～	宇陀市立榛原西小学校	友だちを惹きつける魅力のあるAさんだが、きつい言葉を言ったり、なかま外れにしたりする面もあった。「生活綴り方」や「持ち味見つけ」に取り組む中で、苦しみながらも変わりはじめたAさんのことを報告します。
第3分散会	大阪市立中島中学校 (体育館) (むくのき学園)	徳島県	今まで、僕、どうかしてたよね ～ポジティブ行動支援で子ども一人一人の思いを受け止める～	鳴門市第一小学校	児童が自分のよいところに気付き、自信をもって生活できるよう、ポジティブ行動支援に取り組んだ。認め、ほめることで児童の自己有用感が高まり、教師も児童の思いを受け止めることの大切さに改めて気付いた。
		大阪府	ぼく、お風呂担当！	泉南市立鳴滝小学校	学校でわからないところがあるとやる気をなくしてしまうことがあるA。まちたんけんでは出会った校区で働く人や住んでいる人に話を聞く学習を通して、自分の夢をより具体的にえがくことができた様子を報告します。
		大阪市	むすぶ・くねんかんで ～小中一貫校での成長と、渡日生との出会い～	大阪市立中島中学校	2年生の秋、3年生の夏とネパールから2人の編入生が来た。日本語が全くわからない状況から高校受験に向けての取り組み、またこの2人が学年の子どもたちとどのように繋がっていったのかを報告する。
		滋賀県	「どうせお前らは俺のことなんかどうでもいいんやろ・・・」 ～Aさんから学び、気付かされたこと～	彦根市立佐和山小学校	生きづらさを抱えたまま登校し、大人への不信感でいっぱいだったAさん。そのAさんとの関わりから学んだこと、気付かされたこと、葛藤を報告します。「つながる」とはどういうことか、一緒に考えさせてください。
		三重県	「Aが優しいから、お母さんは心強いんだね」	松阪市立第四小学校	私は、外国にルーツがあるAの保護者とつながろうと家庭訪問を繰り返した。取組を通して「学校、つまらん」と言っていたAが、「学校ないつまらん。友だちと遊べやんから」と変わっていった実践を報告する。

第4分散会	兵庫県 明石市立明石小学校 (体育館)	岡山県	差別と闘う人々と出会うということ ～地域教材「大火をくり返さない」を通して～	岡山県和気郡 和気町立和気小学校	100年前、大火災を受けまちづくりに取り組んだ人々を教材にした「大火をくり返さない」から、地域にでかけ人々と出会った小学校3年生の部落問題学習。子どもたちの学びと私たち自身の出会い直しについて報告します。
		兵庫県	地域教材・自作教材を中核に据えた人権同和学習 ～低学年からの系統的な指導の充実をめざして～	兵庫県たつの市立誉田小学校	「あれ？」と気づいたり「本当にそれでいいのかな。」と言えたり。身の回りにおける人権課題を解決するための素地を養うため、自作教材や地域教材を中核に据えた低学年からの系統性を大切に取組を報告する。
		大阪府	Aの気持ち知りたいねん ～行動の裏にある気持ちにこだわって～	松原市立布忍小学校	「今、いちばんしんどい思いをしている子」の立場に立ち、気持ちを伝えてきた子どもたち。地域の子どものつながりや「仲間集会」、生き方・共生の学習「ぬのしょう、タウン・ワークス」を通じた実践を報告する。
		奈良県	差別について考える授業 ～先生、「人間に光あれ」は「人間」じゃないとあかんねん～	桜井市立纏向小学校	昨年度、6年生は学級みんなで差別について考えた。そして、そのことを「まきむく水平社宣言」として人権集会で発表した。そこに至るまでの出会いや、自らを振り返りながら学び合ってきた子どもたちの姿を報告する。
		東京都	木下川解放子ども会に関わり続けること	東京都品川区立鮫浜小学校	木下川解放子ども会に関わり始めて8年めを迎える。なぜ私が木下川解放子ども会に関わり続けているのか、そして何を思い関わり続けているのかを、この8年間を捉え返して報告する。教員として木下川解放子ども会の子どものたちと関わることで見えてきた自身の課題を明確にできたらと思っている。
第5分散会	兵庫県 明石市立中崎小学校 (体育館)	福岡県	「違和を感じる」…そこからの始まり	新宮町立新宮北小学校 新宮町役場社会教育課	「違和を感じる」というある生徒の作文から始まった、性の多様性を理解するとりくみ。保幼小中のつながりを創造しつつ、行政、地域への啓発活動にもつながっていったひろがりのあるとりくみ。学びは、日々の具体実践やさまざまな教育活動、行事の見直しにもつなげている。
		高知県	ひとつひとつの思いに心を寄せて	高知市立朝倉保育園	友だちとの関わりがほとんどなく、本児の好きなことを一人で長い時間、繰り返し遊ぶAさん(4歳児)。1年間Aさんの「したい」思いと「しない」思いに寄り添うなかで担任が悩んだり、保育を工夫したりしてきたこと。そして、Aさんの変化、Aさんの保護者の変化、集団のなかで互いに成長し合えたと感じた姿などを報告したい。
		香川県	思いをつなぎ 広げるために	三木町立平井小学校	医療的ケア児のゆみさん(仮名)と出会い、担任として葛藤する日々。周りの教職員とのつながりや意識の変容、「地域と学校をもっとつなげたい」という思いで取り組んでいった足跡や今後の課題について報告する。
		兵庫県	自立に向かう子どもの姿を求めて ～エピソード記録の交流を通して～	社会福祉法人氷上町福祉会 認定こども園いくさと	「0歳から5歳までの『自立に向かう子どもの姿』を活用し、『エピソード記録』の交流会を通して、目の前の子どもの姿からの『読み取り』の質、保育者の言葉かけの内容やタイミングの質の向上を図っている。
		大阪市	変わり者のいる学級 ～1年間で見えてきた一人ひとりの“いろ”～	大阪市立加島小学校	ある日、子どもが自分はセクシャルマイノリティだと語る。それをきっかけに、マイノリティを意識するようになった。だれにもマイノリティな部分がある。そこでようやく気づいたことがある「マイノリティは個性だ」。
第6分散会	兵庫県 明石市立花園小学校 (体育館)	大分県	自分事としてとらえ、灯火をつける人権教育	九重町立野矢小学校	「大丈夫です」と嫌なことから背を向けるAの姿や、小規模校ならではの事態を通して見えてきた課題。ある事をきっかけに、部落問題学習から「人権」について考えたAと周りの子どもたちの変容を書いたレポート。
		高知県	『あなた』がいてくれたから	高知市立第六小学校	子ども達が、周りの友だちと関わる際のソーシャルスキルの獲得と、自分も友だちも大切にし、高め合う集団になることをめざして取り組んだ1年間の実践と子ども達の変容について報告をさせていただきます。
		徳島県	自分らしさを大切に	神山町立神山中学校	本校は19年前から大島青松園と交流をさせていただいている。思いはあるけれど、素直に表現することが苦手な生徒たちが、3年生になり、ハンセン病に関する人権学習を通して成長していく様子について報告する。
		兵庫県	自分ならどうする？！ ～正しいことを学び、自信をもって行動できる人権教育～	南あわじ市立西淡中学校	「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」として、市全体で9年間を見通した人権教育を進めている。プロジェクトを通して、自分の近くにある差別に気づき、差別を許さない心情や差別の解消にむけた実践力の育成に取り組んでいる。
		大阪市	「これ以上頑張られへん」 ～ユウが教えてくれたこと～	大阪市立栄小学校	6年生になり、班活動の班長にも積極的に挑戦するが、うまくいかない日々が続く。なんとかユウが前向きな気持ちで過ごせるように、交換日記を始めてサポートしようとするが…

第7分散会	神戸市立長田南小学校 (体育館)	徳島県	「ひと」を大切にできる生徒の育成	吉野川市立鴨島第一中学校	ありのままの自分を肯定的に受け止めたり、友達を肯定的に受け止めて、ちがいを認め合えたりする集団をつくるために、人権集会や交流学習を通しての「ひと」を大切にできる生徒の育成をめざした取り組みを報告。
		兵庫県	深津中学校の人権・同和教育について ～多様な人権問題の解消をめざして～	西宮市立深津中学校	校区に同和地域のある本校は、人権・同和教育の推進を重点課題とし、全ての教育活動の根底に人権・同和教育を据えている。「小中連携」「学力保障」そして本校独自の取組である「人権総合」を中心に報告する。
		大阪市	ぼく甘えてました ～寄り添い、支えていく中で、成長していくタケシ～	大阪市立長橋小学校	担任したクラスにいたタケシ。家庭は、前任校では見たことがないほどしんどい状況で、戸惑いを感じた。そんなタケシに寄り添い、家のことも含めて支援することで、新たな気づきがあり、ともに成長することができた。
		神奈川県	多文化共生を楽しもう！ ～教育文化研究所における 多文化共生教育研究委員会の活動報告～	秦野市立南小学校	中地区の教職員が教育文化研究所を発信拠点に進めてきた「児童生徒・保護者・教職員・地域がともに多文化共生社会を作り上げる」ために行ってきた学校・地域のとりくみから学んだことを報告したい。
第8分散会	(アゼリアホール) 大阪府池田市市民文化会館 (大ホール)	宮崎県	部落問題学習とわたし	日向市立日向中学校	小学6年生を担任した時に抱いた、部落問題学習の重要性と知識不足、教材資料探しの難しさ。他の職員も同様の悩みを抱えていたことから、6年生社会科における部落問題学習のガイドラインを作成することとし、それを基に授業実践を行った報告。
		香川県	目の前の子どもを見つめて	坂出市立坂出中学校	LGBTQ等について全教職員で共有し、学校環境を変える必要性を感じる。学校が多様性を受け入れ、子どもたちが自分らしさを大切に、堂々と生きていくことができる世の中をつくる後押しがしたい。
		大阪府	「みんなとできてうれしい」	箕面市立第三中学校	対等な関係づくりをめざし、様々な対話を重ねる中で、Aも含めたマイノリティの子どもも周りの子どもも、安心して過ごせる環境をつくり、子どもたちが自信を持って次のステージに進んでいった実践。
		新潟	「思い」をつないで	関川村立関川中学校	2022年8月、新潟県北部豪雨災害ボランティアに参加して、被差別部落に住む小学6年生のAさんに出会った。家族との間に葛藤を感じ、生き方に悩むAさんと共に「家族を大切に生きる生き方」について考えたい。
第9分散会	大阪府高槻市第四中学校 (体育館)	福岡県	知らないことを知っていくことが人権問題を解決する方法 ～「色覚と人権」の授業に取り組んで～	福岡県立八幡工業高等学校	「検査のまえによむ色覚の本 発行:しきかく学習カラーメイト」をテキストとして活用した授業実践の報告です。少数色覚の問題を知っていただくとともに、「多様性の受容」として他の人権課題の学びともつないで、それぞれの学校でも実践していただきたい内容です。
		大阪府	ちょっと待って！Aもじゃない？ ～誰ひとり取り残さない社会を創る～	茨木市立三島小学校	Aに対して「こわい」と先入観をもっていたまわりの子どもたちが、一人ひとりを大切にしまちづくりをすすめる地域をロールモデルに、Aと出会い直し、社会のおかしさと向き合おうと変容していった様子を報告する。
		京都市	差別が見えにくい時代の部落問題学習をどう実践するか、一つの提案	京都市立修学院中学校	被差別の立場の人々に焦点を当てるばかりでなく、差別する側になりうる「私たち」、または差別に突然出くわすかもしれない「私たち」の中の差別意識に気づき、それをどう乗り越えていくかを考える人権学習の実践をもとに、報告します。
		東京都	「南葛」で学んで	東京都立南葛飾高等学校定時制	同和教育に長い歴史のある「南葛定」に、初任者として着任して6年めを迎えた。その間、厳しい人生を生きてきた生徒たちや同校の教員との出会いを通して自らの生き方を問われ続けてきた。6年間で学び考えてきたこと、自分が変わったことをまとめた報告。
第10分散会	大阪市立高殿小学校 (講堂)	大分県	竹田高校の「1.31人権集会」を通して	大分県立竹田高等学校	約20年前の差別落書きから人権集会を継続してきた竹田高校。その内容も時代の流れとともに変化してきた。それらとの関わりで自身の大きな変化が生まれるとともに、周囲を巻き込んで人権集会を運営していった実践。
		徳島県	小さな積み重ねから自尊感情を育み、人と人をつなげる教育の創造	徳島県立阿南光高等学校	本校は、委員会活動や部活動などにおいて、小さな体験を積み重ねて、生徒の自尊感情を育む教育活動を行っている。校内や地域での実践とその成果、今後の課題を報告する。
		大阪府	知って気づいて寄りそって —Aと過ごした1年間—	羽曳野市立峰塚中学校	初めて日本語指導を担当して出会ったアフガニスタンにルーツのあるA。卒業前、Aは自分の思いを300人の仲間たちに届けようと、学年集会でスピーチすることを決意します。Aと過ごした1年間で報告します。
		千葉県	「せんせい、にほんにきて、よかった」 ～外国をルーツとする生徒との関わりから～	千葉県同和教育研究協議会 東葛同和教育研究会	同和教育推進教員として経験から夜間定時制高校を希望した。そして担任として出会ったネパール国籍であるKとの関わりについて報告し、自らの気づきや学びを提起する。

第2分科会 自主活動

分散会番号	会場施設名	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
第1分散会	大阪府門真市立公民館 ()	熊本県	『旭志に来て良かった』という思いが強くなりました」 ～この一年間の取組を振り返る中で～	菊陽町立武蔵ヶ丘中学校	報告者が人権教育主任を3年間勤めるなかで、部落差別事件にであり、地元の支部長や解放子ども会の子たちと狭山現地学習などに取り組み、子どもたちの姿から自分を振り返った報告。
		大阪府	仲間とともに広げよう 反差別の思い ～学校を越えて～	八尾市立桂中学校	人権クラブ所属のAが同学年のBたちとともに、人権学習や反差別集会にとりくんできたが、市内で生じた差別落書をきっかけに、さらに反差別の思いを市全体へ広めようと活動したようすを報告する。
		奈良県	「生きづらさ」を抱えた生徒の居場所 ～人権福祉研究部～	奈良県立奈良商工高等学校	現在、人権福祉研究部(旧解放研)は、14名で多様な人権問題に向き合っている。部員は何を思い入り活動しているのか、3年半関わってきたことを報告する。生きづらさを抱えた生徒の居場所づくりについて考えたい。
		新潟	「差別に負けない生き方を仲間とともに」	新潟県立高田農業高等学校	セクシュアルマイノリティ生徒交流会の活動は、自身の解放への活動だ。前任校で出会ったMさん、交流会で出会ったYさん、Sさんなどの姿を通して、差別に負けない生き方を仲間とともに構築する教育活動を考えたい。
第2分散会	大阪産業大学1階(多目的本館11号館) ()	鹿児島県	「みんなで乗り越えてほしい」 ～子どもたちが胸を張って生きる学びを～	鹿児島市立玉江小学校	チャレンジ会(学習会)で学ぶ子どもたちを、地域の人たちが行事や日々の声かけを通して見守り育む。つながることで、ふるさとを支えてきた人たちの思いから、つながる強さを知り、胸を張って生きるための学びについて考える。
		徳島県	生徒の思いや活動と、人と人がつながること	徳島県立名西高等学校	生徒の積極性・主体性を育て、自信をもたせるための学校の取組と、それらを通して成長し、本校の人権教育をけん引する自主活動JRC部、人権社会研究会について紹介する。また、活動の深まりへの課題について考える。
		大阪府	「あなたは、どうする？」 ～堺市研演劇交流会を通して～	堺市立深井中央中学校	子どもたちに関わる人権課題について、自分たちはどうしたいのか、どんな社会にしていきたいのか、そのために何を伝えたいのかなどを話し合い、堺市研演劇交流会で表現しました。その自主活動の学びを報告します。
		京都市	「集団づくり・自分づくり・授業づくり」で育む自己肯定感	京都市立錦林小学校	「やればできる」「自分にはよいところがある」をキーワードとし、児童の自己肯定感を育むことを目指しています。校内全体のチームとしての取組と、困りを抱える児童への多角的なアプローチについて報告します。

第3分科会 進路・学力保障

分散会番号	会場施設名	加盟人同 教名	報 告 題 名	所 属	報 告 要 旨
第1分散会	神戸市立神戸生田中学校 (体育館)	高知県	抱える思いに寄り添って～学校との繋がり～	高知市立長浜小学校	5年生から不登校状態となったAさんへの支援についての報告。子どもたち同士がかかわり合い、Aさんの居場所を守ることを大切にしながら実践を行った。「学校に来ることがすべてではない。ただ、学校に来ない(来られない)背景にどんな子どもたちの思いがあるのか」を考え、寄り添った1年間の実践を報告したい。
		兵庫県	湊川高校の生徒たちの進路・学力保障 —解放教育の視点にたった教育権の保障—	兵庫県立湊川高等学校	1973年、全国の公立高校で初となる「朝鮮語」の授業が開講されて50年を迎える湊川高校。解放教育の視点にたった障がいをもつ生徒の受け入れ、元宮城教育大学学長だった林竹二による「人間について」についての授業をきっかけとした授業創造などが取り組まれてきた。現在も「朝鮮語」や「識字教室」など行われている。最近の湊川高校の生徒たちの進路・学力保障についての現状と課題について本報告では行う。
		大阪府	18歳成人における課題 ～SOSを出せるように～	大阪府立西成高等学校	誰ひとり取り残さないために虐待による子どもの人権侵害に気づき18歳成人に到達することで、同じ高校3年生でも対応が分かれる現状に対し「社会的自立はSOSから始まる」ことの重要性について考えたい。
		大阪市	子どもをあきらめない～悩み続けた3年間～	大阪市立我孫子南中学校	人間関係をうまく築くことができず、友人や教職員と衝突を繰り返すアカリ。子どもを理解し関係を作っていくにはどうしたらいいのかを悩み続けた3年間で「子どもと向き合うとは」—今も自分に問い続けています。
		滋賀県	「先生になるって、あんな？」 ～学校に行かないを選択した私が教師をめざす、これってあり？～	豊郷町隣保館 若い世代のための人権まなび塾	中学校の2年間、学校に行かない選択をし、隣保館通学をしていた頃の自分の思いと周りの大人たちの意識のギャップ。隣保館で出会った人たちが定時制で過ごした4年間があったことで教師になりたいと思えた自分がある。
第2分散会	京都府 (八幡市文化センター)	熊本県	「どこに行っても頑張れる。私の夢にたどりつく。」	御船町立御船中学校	報告者が、電動車椅子で過ごすサヤさんとの入学から卒業までの3年間、一緒に過ごし取り組んできた報告。サヤさんに二度と「一人でもいいんです」とは言わせたくないという思いで向き合った3年間。
		大阪市	サメとみくりと友だちと ～さまざまな関わりの中から見つけた進路選択～	大阪市立平野北中学校	集団での生活になじめず、生活でも「荒れ」がみられるようになってきたみくり。3年生になって、進路と向き合うことになった。親、友だち、先生、さまざまな関わりの中で、自ら見つけた進路選択について報告します。
		京都府	「やろう！みんなで！！」	綾部市立綾部小学校	「ひとり」と「ひとり」ではなく、ひとりを集団のチカラで支え、ともに生活することで、認め合い・高め合う集団づくり、そして進路保障について報告します。
		京都市	普通学級における障害のある児童への理解を育む取組 ～一人ひとりの児童の自己実現に向けて～	京都市立常磐野小学校	障害のある児童がよりよく社会を生きるためには、人・学習・社会がつながり、深まることが必要であり、それが自己実現への礎となり、未来をつくることにつながると考えます。実践事例をもとに報告します。
		三重県	「アイツらみたいになりたい」 ～クラスと共に成長していく～	県立久居農林高等学校	学校に気もちが向いていないA。私はAとかかわり合いがある人たちとつながり、共に成長を見守ることが大切だと思った。Aとかかわりを通して、共に成長していったクラスと私自身の気づきや学びを報告する。
第3分散会	京都府 (八幡市文化センター)	香川県	支える力、つなげる思い	香川県立香川中部支援学校	幼稚部から高等部の各部において子どもたちの発達段階等を踏まえた指導・支援を行う一方、各々の部が互いに連携し、一貫した連続性のある指導・支援を行いながら、進路実現を目指しているという特別支援学校の実践。
		大阪府	「人の気持ちを理解できる頼られる人でありたい」 ～Aや仲間の思いを大切にしたりとくみ～	和泉市立信太中学校	「学校がある日はいややけど、休みの日の方がもったいや」と語っていたAが、Aの思いに寄り添い励まし続ける仲間や、Aが安心して思いを出せる集団との経験を通して、将来への展望を描いていく姿を報告します。
		京都府	「先生、この問題どうやって解くの？」 ～進学後の姿を見通した本校の取組とAの成長～	宇治市立宇治中学校	進学後の姿を見通せず、前向きに取り組めなかったAが、人との関わりの中でどのような成長と変容について振り返り、報告します。
		滋賀県	「自分を識る」 ～これまでの自分 これからの自分～	栗東市立栗東西中学校	通級による指導の加配としてできる生徒支援について考えた。生徒が自分と向き合い、自分のことを識る作業に立ち合っている。子どもの未来の可能性を信じ、その子と関わる人々とのつながりを模索中である。
第4分散会	京都府八幡市立男山中学校 (体育館)	徳島県	ふるさと東祖谷での学びを生かし、たくましく自立できる児童の育成 ～9年間を見通した豊かな関わり合いを通して～	三好市立東祖谷小学校	「東祖谷ならではの9年間の学びと育ちをつなぐ教育」を目標に、校種・学年を超えた子ども同士・小中教職員・地域の方々等、幅広い教育力との関りを通し、子どもたちにたくましく自立できる力を育む教育活動に取り組んでいる。
		大阪市	「透明な線」のない居場所づくり ～一人ひとりのちがいを知って、考えて、行動しよう！～	大阪市立矢田南中学校	小中一貫校である本校で国際クラブ「チョソン友の会(民族学級)」「ハビネスワールド(多文化学級)」に在籍する3名の生徒を中心に、周辺生徒の様子や54期生の集団としての変容について報告する。
		奈良県	ぼく、別になんも困ってへん！ —学校での色覚検査をめぐる課題—	王寺町立王寺南義務教育学校	私は、石原式色覚検査表が読めない「色覚異常者」が、鉄道運転士や消防士等になれないのは、仕方がないと思っていた。でも、それは間違いだった。色覚多様性への理解を広げようと、授業等に取組んだことを報告する。
		京都府	「学校の変容を人権教育の視点からふりかえる」	八幡市立中央小学校	困難な時代から現在への学校の変容と、その中で実践と今後の展望について、人権教育の観点から振り返り、報告します。

社会教育部会

第4分科会 人権確立をめざすまちづくり

分散会番号	会場施設名	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
第1分散会	(兵庫県明石市立市民会館)(大ホール)	愛媛県	居場所を求めて	NPO法人リトルウイング	障がいのある娘の幸せを願い、居場所を求めて就労支援事業所を立ち上げた。活動していくうちに仲間が増え、障がいの特性に配慮しながら支援を続けている。課題も多く、日々、悩み、試行錯誤しながら活動している。
		島根県	彼らはわが町の住民です —多文化共生のまちづくり—	吉賀町総務課	吉賀町は、外国人住民比率3%弱と全国平均よりもはるかに高く、日本語を母語としない人たちの多くが就労しています。彼らは「外国人労働者」ではなく、わが町の住民です。地域の一員として安心安全に暮らすための、多文化共生の取り組みについて報告します。
		兵庫県	地域に人権文化を根ざす取組 ～人権啓発の工夫について～	明石市人権推進課	明石市では、人権研修会を実施するために、中学校区ごとに人権教育推進員を設置している。地域に人権文化を根ざすための工夫や人権課題を身近に感じてもらえるような実践、また推進員に必要なことについて考える。
		大阪市	大阪市生野区における学校跡地を活用した多文化共生拠点「いくのパークの挑戦」	NPO法人IKUNO・多文化ふらっと	外国籍住民比率が約21%に上る大阪市生野区で、閉校になった市立御幸森小学校の跡地を活用し、誰もが暮らしやすい全国NO1のグローバルタウンを創ることをビジョンに掲げる「いくのパーク」の活動を報告します。
第2分散会	(兵庫県明石市立市民会館)(中ホール)	佐賀県	ワイワイキャンプが教えてくれたこと ～わたしたちは「つながり」を『さが』しています～	佐賀県同教・隣保事業士・伊万里市教育委員会 生涯学習課長	『あたたかい時間ほっとする。いつもの君もとっておき。なんだかやさしくなれる。うまく言えないけど心は陽当たり良好』～続けることが、つながること…29年間にわたるワイワイキャンプの軌跡を報告します。
		香川県	未来につながるしまづくり	直島町教育委員会	子どもたちの地域での英語ガイド活動などの取組が、町のダイバーシティを受け入れる素地となっている。生まれ育った直島を誇りをもつ子どもたちは将来、多様性を認めた人権意識の高い大人になると考えている。
		兵庫県	つながりあって幸せに生きる ～不登校・ひきこもり支援を通して学ぶこと～	NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク兵庫ひきこもり相談支援センター但馬ランチドーナツの会	この世に誕生したすべての命が、決して孤立することなく大切にされ、その人らしく幸せに生きていくことができる包摂型社会をめざします。食を通して人とつながり、人の中で人間力が回復することを信じています。
		三重県	本当の自分を生きる ～自分のなかの差別からの解放～	NPO法人 LGBTの家族と友人をつなぐ会	「解放されていない先生に教えてもろても、子どもたちが解放されるわけない」と指摘してくれた人との出会いで、自分の差別心に気づき、生き方を問い直し、本当の自分で生きられるようになった過程、思いを報告する。
第3分散会	大阪市立加島小学校 (講堂)	宮崎県	「支部の藍染 海を渡る」	えびの市立真幸小学校	報告者は、加配教員として、教育集会所での活動に参加するようになった。差別を受けながらも「自力自闘の解放運動」を続けて来られた支部長を始めとする支部の方々との交流から、それまで義務感で関わっていた自分に気付かされる。現在、支部の中心活動である「藍染教室」に触れながら、支部の人たちの思い、そして自身の学びについて報告する。
		高知県	識字学級って何ですか？	高知市朝倉総合識字学級	朝倉総合識字学級25年間の歩みと、ともに学び合うなかで、どのように変容してきたか。また、これから先どのように成長していきたいかを報告します。
		大阪市	識字運動はみんなのもの～事業「料理とおしゃべり」を通して識字学級を知ろう」を通して～	識字・日本語センター	事業「料理とおしゃべり」を通して識字学級を知ろう」を通して、講師となった学習者や講座参加者が自分たちの力を発揮し、地域の人とつながっていった。本センターでは、居場所・出番・物語を合言葉に取り組んでいる。
		奈良県	「誰もが元気になれる中友」をめざして	大正校区中学生友の会	「生きる意味わからん！」と叫んだ当時中学2年生のAに「生きる意味」「一人じゃないよ」を伝えたい。生きづらさを抱えた子どもたちの居場所をつくりたいとスタートした中友の活動と子どもたちの成長を報告する。
		三重県	しらすぎ識字学級で学び、そして気づきへ ～人とかかわりなくして今の自分なし～	しらすぎ識字学級	私は、しらすぎ識字学級に通い、識字生や講師との出会いを通して自分の生い立ちをふり返った。識字学級は社会から取り残された若者にとっても1つの居場所であり続けることの重要性を自身の体験を基に報告する。

第4分散会	大阪府立都島中学校（体育館）	岡山県	美作騒擾の学習を軸とした加茂人権問題研究会の取り組み	加茂人権問題研究会	1873年に起きた美作騒擾に関する学習を軸にして、部落差別をなくそうという願いで取り組んできたこと、学んできたことについて報告します。地元で暮らした諸先輩の貴重な訴えや地域ごとの歩みもお伝えします。
		大阪市	「ハンセン病問題に学ぶ虹の会おおさか」の活動 ～「ここに座りや～」から始まった～	「ハンセン病問題に学ぶ虹の会おおさか」	「ハンセン病問題に学ぶ虹の会おおさか」は、結成20年を迎えた。ハンセン病回復者や家族からの聞き取りやFW、学習会等で学び行動してきた。差別はなくなると信じて、仲間と共に続けてきた活動の報告です。
		滋賀県	なんで差別が見えんのや ～人権とまちづくりに取り組む廣瀬自治会の今～	廣瀬同和研究会 NPO法人湖北じんけんネットワーク	同対事業以後、「寝た子を起こすな」の地域が増えた。そうした中、部落で新たに「人権とまちづくり」を掲げ、周辺地区や行政を巻き込み、差別解消に動き出した人々がいる。新たに解放運動を模索する人々の取組の報告。
		埼玉県	朗読劇『私の歩んだ道』に差別解消の想いをこめて	児玉郡市解放教育研究会・部落解放同盟埼玉県連合会児玉郡市協議会	行政とのつながりが切れ、少ない人数になった今、差別解消に向け、手をつなげるものは何か？ 解放教育、解放運動の2側面で手をつなぎ、仲間とともに被差別の立場で生きてきた地元支部員の半生を朗読劇として演じることをきっかけに、部落差別解消の糸口を見つけてはじめている最中の実践である。
第5分散会	大阪府立柴島高等学校（体育館）	愛媛県	私たち、自分のために学んでいるんです	四国中央市立金生第二小学校PTA	「もう部落差別なんてないのに、どうしていつまでも同和教育するんですか」ある保護者の言葉をきっかけに、今年度、保護者と教職員が共に学ぶ学習会を立ち上げた。人数は少なくても、毎回熱心に参加してくれる人たちと繋がりが生まれ、試行錯誤しながらも学びが深まっていく様子を報告する。
		高知県	解放研の「これまで」と「これから」	黒潮町職員労働組合 部落解放研究部	「部落解放運動を自らの課題としてとらえ、実践及び研究協議することにより、労働者自身が自分の持つ差別性に気づき、職場の中の差別や不合理とたたかう運動をつくりだす」ことを目的に立ちあげ、今年で48年目になる解放研の取組について報告する。
		鳥取県	「地区進出学習会へのこだわり」 ～共に学び、共に行動する～	大山町中山ふれあいセンター	昭和40年代後半に始まった地区進出学習会。成果を上げつつも、様々な要因で縮小、なくす現状にある。この流れに抗い、行政、地域、学校、保護者が熱い想いをもち、共に学び、共に歩んでいる様子を報告します。
		大阪市	「きみら、何のために太鼓たたいてるん？」 ～浅香太鼓集団「獅子」の想い～	浅香太鼓集団「獅子」	大阪市住吉区浅香町を拠点として活動している浅香太鼓集団「獅子」が、何をめざして活動してきたのか、結成当時から現在にわたる姿、そして次世代への想いを報告します。
		千葉県	【私たち】の部落研	東葛同和教育研究会	同推としての活動の中で、自分を語り被差別の当事者の語りを大切にしている。部落研の司会者として、部落出身の青年たちと性的マイノリティーの青年とが共にわかり合うよう模索する。この中での発見を報告する。